

精神科医療の充実へ

愛知県議団

先進的な取り組みを視察



公明党愛知県議団（渡会）はこのほど、前の県精神医療センター（粉川院長）を視察し、精神科医療の充実へ先進的な取り組みを視察。現場の声を生かした政策の実現をめざし、各地で精力的に調査活動を展開している公明議員の取り組みを紹介する。

党県議団は施設の概要について説明を受けた後、救急病棟など各施設を視察。立城山病院（立城山病院）は老朽化した施設の修繕や診療内容を拡充するため、2014年度から改築工事に着手し、今年2月に前期工事が完成しオーブン。引き続き後期の工事が進められ、17年度には全面的にオーブンする計画だ。

県精神医療センターで先進的な取り組みについて説明を受ける愛知県議団（左から6人）

科救急医療など先進的な取り組みについて調査した。前期の改築工事では、救急病棟や医療観察法病棟など専門性の高い入院病棟を設置。また、発達障がいや被虐待などにより精神疾患を持つ青年期の患者を専門とした児童青年期外来などの外来部門も充実させた。

同センター（改築前は県立城山病院）は老朽化した施設の修繕や診療内容を拡充するため、2014年度から改築工事に着手し、今後2月に前期工事が完成しオーブン。引き続き後期の工事が進められ、17年度には全面的にオーブンする計画だ。

これに対し、渡会議長は「職場環境を整え、医療スタッフが過ごしやすい環境づくりをめざす」と話した。

「職場環境を整え、医療スタッフを確保することは重要」と述べ、精神科医療の充実に取り組む意欲を示した。

公明

各地で活発に調査活動